

善隣

No.532 通巻799

2023年（令和5年）1月1日発行（毎月1日発行）

2023 2023
1・2
（合併号）



一般社団法人 国際善隣協会

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、令和5年をお健やかに迎えになられたことと思います。平素より当協会の運営にあたり、格別のご理解ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

日中交流を顧みますと、2022年は日中国交正常化50年にあたりました。

国際善隣協会は日中両国の長い歴史的交流を重ね、両国関係の進展に微力ながら努めてまいりました。

この数年発生した新型コロナウイルスの感染拡大は世界中に伝播し、多くの感染者、死亡者を出しております。我が国も昨年10月以来感染者が増加傾向にあります。

国際善隣協会としては、新型コロナ

令和5年

新年のご挨拶

会長 矢野 一彌



も注意喚起をしながら対応させていた
だく所存です。

さて、国際善隣協会に目を向けますと、コロナ禍により主な協会活動の停止や対面での講演会などもオンラインによる開催を余儀なくされました。また、大きな問題として、私は協会の閉鎖問題は個人的には避けて通れないの

ウィルスの感染が拡大している現在、会員皆様の「健康第一」を最優先に考慮し、何よりも会員の中からコロナウイルス感染者を出さないよう心がけました。幸いにして、今のところそのような罹患の情報はございません。またテナント各社様に対しましても今後と

ではないかと思っておりますが、昨年6月度の理事会で、「将来検討委員会」(特別委員会)を設置し、本年3月度の理事会に報告することになっておりますので、これを受けて理事会討議により今後の方向付けを決めていきたいと考えています。

併せて会館ビルについては昨年大阪北新地雑居ビル火災の教訓として、垂直式救助袋および自動消火設備強力泡消火器を設置し、人命を守るべく努力しております。会員の皆様、これからもご協力をよろしく願います。

本年も皆様にとりまして素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げます。
新年のご挨拶とさせていただきます。

善 隣

目 次

2023年
1月・2月（合併号）

新年のご挨拶 会長 矢野一彌

公開講演会記録

人材育成協力と企業の国際展開支援について
——日本と海外諸国相互の経済発展を目指して 栗山信也 2

善隣中国塾 公開講演会記録

中共20回党大会の政治局人事と習近平思想 矢吹 晋 11

羊飼いは羊を知っている

「理想の社会を実現するには、国家経営に人を得なければならない」
という答えにたどりついた松下幸之助のモノの見方 佐藤嘉信 20

中国ウォッチング 編・訳 上松玲子 28

陶々俳壇 馬場由紀子選 30

協会通信・同好会だより 32

2023年1月・2月の行事予定 33

— 善 隣 第532号 通巻799号 —

2023（令和5）年1月1日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋1-5-5
一般社団法人 国際善隣協会
TEL 03（3573）3051
FAX 03（3573）1783

発行人 矢野一彌
編 集 原田克子
編集協力 朝 浩之、校 正 菅沼玲子
印刷所 (有)ゆにおんプレス
定価 一部400円 年額4,800円
振替 00120-0-145956
国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345
©禁無断転載

みんなの写真館 32

（姜晋如、新宅久夫）

当協会は、中国ならびに近隣諸国
との相互理解を深め、友好親善・交
流を推進しています。

一般社団法人 国際善隣協会

公開講演会記録

人材育成協力と企業の国際展開支援について ——日本と海外諸国相互の経済発展を目指して

一般財団法人 海外産業人材育成協会（AOTS） 理事長 栗山信也



はじめに

ベースの技術協力機関として1959年に設立され、「共に生き、共に成長する」協創社会の実現を目指している。設立以来、日本産業界の輸出振興と海外展開に連動して研修生の数は拡大の一途をたどり、これまでにAOTSが日本及び海外で研修を行った研修生の数は、延べ約45万人にのぼる。

I. 一般財団法人 海外産業人材育成協会（AOTS）について

1. AOTS沿革

AOTSは1959年に財団法人海外技術者研修協会（The Association for Overseas Technical Scholarship

（AOTS）として誕生した。1970年に設立された財団法人アジア貿易開発協会（1972年に財団法人海外貿易開発協会（Japan Overseas Development Corporation（JODC）に名称変更）と2012年に合併し、財団法人海外産業人材育成協会となった。2012年の合併当初、協会の英文名称をThe Overseas Human Resources and Industry Development Association（HIDA）としていたが、海外では旧英文略称であるAOTSの認知度が高いため、2017年に英文名称をThe Association for Overseas Technical Cooperation and Sustai-

一般財
団法人海
外産業人
材育成協
会（AOTS）は、
開発途上
国と日本
の相互の
経済発展
を目指す
初の民間



AOTS 創立60周年記念行事に合わせて実施された第10回同窓会代表者会議の集合写真

nable Partnerships (AOTS) に変更し、現在に至る。現在、東京と大阪に研修施設と宿泊施設を備えた研修センターを所有し、運営している。

2. AOTS 設立経緯

(1) 通商産業省（現経済産業省）の政策と「海外産業技術研修所」構想

戦後、昭和30年代初頭の日本では、通商産業省（以下、通産省という）が輸出振興第一主義を基本とする産業政策を掲げ、官民一体となって自立経済への道を歩み始めていた。1958（昭和33）年には通産省は第1回経済協力白書「経済協力の現状と問題点」を発表し、企業が途上国の人材を育成すれば相手国の発展と日本の輸出振興の両方にプラスとなるとの考えから、「海外産業技術研修所」の構想が検討された。

(2) 産業界の動き

一方、産業界は、機械産業を中心に、アジアの独立間もない開発途上国などを有望な輸出市場と考えていたが、欧米企業との競争において日本企業は苦



東京研修センター



関西研修センター

戦を強いられていた。このため、日本機械工業連合会（以下、「日機連」という）は、開発途上国から技術者を日本に招へいして研修すれば、日本の高い技術水準への理解を広めることに加え、相手国の技術者育成に貢献できると考え、海外からの技術研修者養成のための受入体制の整備拡充が建議された。これは通産省の構想にも合致するものだった。

(3) AOTS の母体「アジア学生文化協会」とAOTSの発足

もう一人のプレイヤーは、穂積五一氏により1957年に設立されたアジア学生文化協会（以下、「ア文協」という）である。

「海外産業技術研修所」構想実現を目指していた通産省は、アジアからの留学生のための会館、「アジア文化会館」建設構想を持っていたア文協と協力し、産業人材の研修施設にも活用する計画を実現させた。こうして、ア文協、日機連、通産省の三者の協力により、1959年、日本初の民間ベースの技術協力機関として財団法人海外技術者研修協会（AOTS）が発足し、初代理事長に穂積が就任した。

ここでAOTSの初代理事長である穂積五一について少しご紹介したい。1902年に生まれた穂積は東京帝国大学で上杉慎吉に師事、皇道翼賛青年同盟を結成する一方、満州移民反対や朝鮮・台湾の解放を唱えた。戦後、公職追放となったが、追放解除後の1950年代後半から、アジアからの留学

生を支援する活動を活発化、東京都文京区にある学生寮「新星学寮」において国内外の学生の交流・育成に注力し、ア文協の設立に至る。穂積は、日本とアジア諸国の青年・学生の共同生活を通じて人間的和合と学術文化及び経済の交流を図り、もってアジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とし、「彼のため」を図ることを理念として掲げた。それは現在のAOTSにも息づいている。

II. 日本の政府開発援助（ODA）と経済協力

1. 日本の政府開発援助（ODA）の歴史と日本の経済協力の特徴

戦後、日本がロンボ・プランに加盟し、技術協力を開始したのが1954年、円借款を開始したのが1958年であり、1959年のAOTSの設立がいかに日本のODAの初期にあったかがわかる。JODCの設立も1970年であり、1974年に設立された国際協力事業団（現独立行政法人国際協力機構）（JICA）よりも早かった。

政府開発援助（ODA）には「無償資金協力」「技術協力」「有償資金協力（円借款）」があり、AOTSの事業は技術協力にあたる。日本の経済協力は、有償資金協力（円借款）の割合が大きいという特徴がある。当然、円借款は返済義務があるため、援助を受けた被援助国に対し、返済する基盤を作るための自助努力を促す効果があったといえる。また、技術協力を重視し、「魚を与えるのではなく魚の獲り方や育て方を教える」ことにより自助努力による持続的な経済発展を促したこと、海外直接投資（FDI）との連動や民間団体を通じた支援を行うなど、民間の活力を活用したことが功を奏し、東アジア及びASEANの躍進につながった。

2. アフリカとアジアの比較

こうしたアジア型モデルの優位性は、アフリカとの比較においても顕著である。1960～2020年における全世界からの地域別ODA受領額を見ると、アフリカは主にヨーロッパやアメリカからの支援を受け、アジアの2

倍近いODAを受領してきた^(*)。

しかし、結果的にアジアが大きく発展を遂げているのは周知のとおりである。一方、民間企業によるFDI額を見てみると、フローベースにおいてもストックベースにおいても逆にアジアはアフリカの何倍にもなる^(**)。

つまり、政府の援助だけで経済発展を支えることは困難で、民間の資金の流れが重要であり、民間資金とODAとの相乗効果がアジアの驚異的な発展に結びついたといえる。

III. AOTSの事業

1. 事業内容と事業実績

(1) 2022年度の事業内容

2022年度のAOTS事業は、国庫補助事業が46億円（事業費ベース）であり、事業費の過半を占めている。ほかに国庫等受託事業22億円、日アセアン経済産業協力委員会（AMEIC）事務局関連事業^(*)、自主事業を実施しているが、ほとんどが国の政策に基づく事業である。

事業の形態としては、日本で受け入

れて実施する「受入研修」が大きな割合を占めている。国庫補助事業を例にとると、受入研修には、AOTS研修センターでの導入研修（日本語教育、日本の文化・社会など）を受講したのち、企業での実地研修により固有の技術を学ぶ「技術研修」と、座学や企業訪問により経営管理や生産管理などの技術を学ぶ「管理研修」がある。ほかに、海外日系企業などに講師を派遣して比較的短期で多くの現地社員などの教育を行う「海外研修」、比較的長期で専門家を派遣して現場での技術指導を行う「専門家派遣」、海外の大学で講座を開設し、日本企業又は海外日系企業への就職につなげる「寄附講座」を実施している。受託事業など他の事業においても、多くはこれらの形態の事業を行っている。

(2) AOTSの研修実績

1959年の設立以来の国庫補助事業における受入研修人数実績では、アジア地域が8割以上を占め、業種別では自動車分野、電器分野、産業機械分野が上位を占めている。

時期的には、1960～1980年までは日本製品の輸出振興、1980～2000年は主に自動車、電子機器などの現地生産・グローバル化、2000年代に入ると日本の中小企業の国際展開及び非製造業系（IT／サービス産業など）の増加と、時代によって人材育成ニーズの傾向が表れている。

特に、自動車産業の分野では、インドネシア、マレーシアでの国民車構想などの各国の政策に協力するとともに、日本企業の海外直接投資を支援してきたことが、受入研修の人数推移にも表れている。また、2000年代には、対象業種が機械産業中心から、サービス業などに多様化し、中小企業の海外展開支援が始まったことが表れている。

2. 時代に則した事業の展開

(1) ウィズコロナ／ポストコロナにおけるAOTS事業の状況

近年の事業実績は、1年あたりの来日研修の参加者は4000人前後、海外で実施する研修の参加者は2000人前後、日本から海外に派遣する専門

家の人数は500人前後で推移してきたが、2019年度の終わりのころから、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大によりグローバルな人の往来が制限され、2020年度以降は対面による研修が激減した。2020～2021年度は原則として全ての国・地域からの新規入国が停止され、特段の事情により入国が認められた案件（日本政府とフィリピン及びインドネシアとの経済連携協定（EPA）に基づき、日本の国家資格を取得し、看護師・介護福祉士として就労するための来日研修など）に限られ、一般の民間企業などの現地産業人材を対象とした来日研修はほとんど実施できなかった。2022年度に入り、水際対策の緩和が徐々に進みつつあるが、コロナ以前の状態に戻ってはおらず、各企業は研修計画を立て直し、来日研修をはじめとする対面による人材育成を再開しようとしている段階である。

これに伴い、AOTSとしては研修センターの稼働率が激減し、経営上苦境にある。

(2) デジタルツールを活用した非対面の技術移転の促進

国を跨いだ人の往来が制限されている状況下においても、AOTSは人材育成専門機関として、従来の日本への研修生受け入れによる技術研修や日本からの講師・専門家派遣による技術指導の代替として、デジタルツールを活用したオンラインによる研修・技術指導スキームを開発し、日本・日系企業、海外現地法人などの継続的な人材育成の取り組みを支援した。

Web会議システムなどを使った座学中心の研修だけではなく、日本のモデル工場内に360度カメラを設置して遠隔指導を行うなど、遠隔研修ツールを活用した研修コンテンツを開発し、遠隔でも臨場感のある研修を提供するために試行錯誤を重ねた。2021年度の国庫補助事業オンライン海外研修には5438人が参加したが、これは通常期の対面での海外研修参加者数を大きく上回る実績であった。

また、国庫補助事業において2020年度から開始した寄附講座事業では、

コロナ禍においても、IT系を中心とした日本企業・現地日系企業が、高度な知識や技術の獲得及び能力などの向上に貢献し、かつ学生の日本企業・現地日系企業への就職につながる寄附講座を開発途上国の大学などで開設している。

(3) 新しい研修分野への取り組み

AOTSでは製造業などの技術者や現地企業の経営者・管理者層を対象に品質管理、生産管理、TQM、トヨタ生産方式、5Sといった日本の優れた経営管理手法などをテーマとした研修を長年実施してきたが、昨今はそれに加えて新しい技術やテーマを取り入れた研修を実施している。

例えば、経済産業省からの受託事業において、タイ工業省の人材育成プログラムに協力するため、IoT・ロボティ化・自動化を推進する事業を進めている。また、昨今の開発途上国の経営者に関心を持つ「AI・IoT」「DX（デジタルトランスフォーメーション）」「カーボンニュートラル」といった新たに注目されている分野について、どのよう

に事業・経営に活かし、取り入れていくのかという要素を組み込んだ研修コースの開発に取り組んでいるところである。

(4) アフリカでの産業人材育成支援の促進

アフリカ全体として1人あたりのGDPはまだ低いが、アフリカ諸国では、通

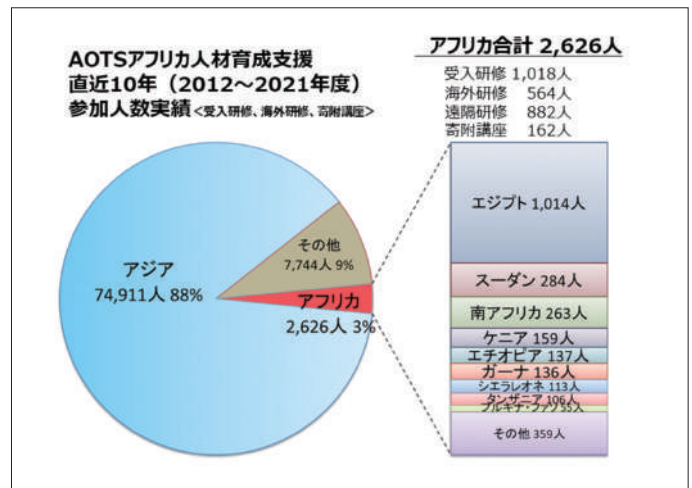


タイで行われた、工場の自動化システム構築のための海外研修の様子。
元 AOTS 研修生を中心とした日本のものづくりに精通したタイ人講師が指導

常の経済発展の過程を超えて急速なIT化が進む、いわゆる「リープフロッグ現象」が起きており、IT産業のように最先端技術の導入により、日本より進展がみられる産業分野もあり、今後の発展のポテンシャルは世界で最も大きいといわれている。

アジア諸国、特に中国のアフリカへの浸透度合いは凄まじいものがあるが、日本産業のアフリカ進出は非常に遅れており、アフリカ産業界での日本のプレゼンスは非常に低い状況である。こうした中、2022年8月に日本政府主導のアフリカ開発をテーマとする国際会議である「第8回アフリカ開発会議（TICAD8）」がチュニジアで開催され、日本政府全体としてアフリカ産業界における日本のプレゼンスの向上、体系的な援助の拡大を図っている。

AOTSの事業でも、アフリカのウエイトは小さく、直近10年（2012～2021年度）での人材育成実績は約2600人に過ぎなかった。しかし、いま述べたようなアフリカの重要性に鑑み、2022年度はオンライン研修



アフリカ人材育成支援の実績

も活用して1年間で20000人の育成を目指しているところである。

アフリカ人材育成にあたっては、デジタルツールを活用したオンライン研修のほか、アフリカにビジネス展開する日本企業を支援するため、アフリカのビジネス拠点（現地法人・提携先・販売代理店など）のスタッフに対して、日本の優れた経営手法、生産管理、保守・メンテナンス、製品知識などについての研修

を種々の手法で実施する。その中には、インドや東南アジアなどの日本以外の第三国で実施する、いわゆる「第三国型研修」スキームの促進も含まれる。さらに、独立行政法人国際協力機構（JICA）がアフリカで展開しているKAIZENプロジェクトとの連携やABEイニシアティブ（アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ）により日本に留学しているアフリカ人留学生に対し、AOTSの研修プログラムを提供することで、彼らと日本産業界をつなぐという取り組みも始めている。

IV. AOTS同窓会・元研修生の

活動

1. AOTS同窓会とは

AOTS同窓会は、日本で行われた研修の参加者が、帰国後に「AOTS研修」という共通体験をもとに結束し、世界各地で自主的に組織している非営利団体である。AOTS同窓会は現在、世界44か国・地域の73か所に結成されており、最も新しく加わった国は、2020年に設立されたジョージア同窓

会である。これらの同窓会は、人材育成を通じて自国の経済産業の発展に貢献するとともに、日本や諸外国との友好関係の増進に努めている。

同窓会メンバーの中には、各国の政界や経済界で活躍する要人も多く、それらネットワークを有する同窓会は、AOTSの事業遂行に重要な役割を果たすとともに、有力な親日・知日人材の国際的ネットワークとして高い評価を得ている。

2. AOTS同窓会の活動事例

AOTS同窓会の活動としては、AOTSの事業への参加者募集などの協力のほか、それぞれの地域で日本語教育、経営管理セミナー、5S大会の実施など、種々の社会貢献活動を行っている。

いくつか具体例を挙げると、バングラデシユのチッタゴン同窓会（CAAS）が2019年12月にAOTS―CAAS研究訓練センターを設立した。また、ミャンマー同窓会がミャンマー国内のSME振興・活性化のため、日本の協力

によりタイで成功した一村一品運動を参考とした製品開発やマーケティングに関するセミナーを、タイ同窓会の協力により企画・実施するなど、同窓会間での協力関係も進展している。

3. WNF (World Network of Friendship) プログラム

WNFプログラムとは、政府の補助金など公的資金によらない独自の枠組みで、AOTS同窓会から自主的に提唱された、開発途上国の自助努力と相互協力による他に類をみない南南協力活動である。AOTS同窓会員、AOTS職員及び趣旨に賛同してくださった一般の皆様からの寄付を財源としたWNF基金により、AOTS同窓会同士の研修生相互交換など人材育成プログラムを推進している。

特に、WNFプログラムの中には、毎年アフリカとインドの同窓会が協力して実施しているものが複数あり、主にインドの同窓会が長年にわたるAOTS研修などを通じて得た知見や技術を、アフリカを含む周辺地域の同窓会に対



産業人材向けに開発した日本語教材「ゲンバの日本語」

し指導し技術移転を図る内容となっている。

4. AOTSタイ同窓会が母体の泰日工業大学（TNI）による日本との架け橋

AOTS同窓会が進化した例としてタイの事例を紹介する。1970年代前半、タイをはじめとする東南アジアで日本排斥運動が盛んであったため、

日タイ両国の経済関係者がそれぞれ危機感をもって関係を改善しようと考えた。それにより日本では1972年に社団法人日・タイ経済協力協会（現一般社団法人日・タイ経済協力協会）（JTCCS）が、タイではAOTSタイ同窓会が母体となり、1973年に泰日経済技術振興協会（Technology Promotion Association（Thailand-Japan）（TPA））が設立され活動を開始した。このTPAが中心となり、現地日系企業やタイ産業界の協力を得て、2007年に泰日工業大学（Thai-Nichi Institute of Technology）（TNI）を開校した。TNIはこれまでに6500人以上の卒業生を輩出し、タイ技術者の育成により日本とタイの友好増進に大きく寄与している。

V. 日本で働く／働くことを希望する外国人人材への支援

これまでAOTSは、研修参加者が研修終了後、研修の成果を母国に持ち帰り母国の発展に貢献する前提で海外の産業人材の育成に取り組んできた。

しかし、人口減少・高齢化に伴う人手不足が日本企業、とりわけ中小企業で深刻化しつつあり、イノベーションの創出や海外取引、新規事業展開といった経営課題の解決に向けて優秀な外国人人材が求められる昨今、従来の事業の幅を拡大し、日本企業のための外国人人材獲得支援や日本で就労する外国人人材が長期にわたり日本で活躍できるように支援を始めている。

(1) 外国人人材獲得支援

国庫補助事業の寄附講座事業において、開発途上国または日本の大学などに日本企業・現地日系企業からの視点・技術などを活用した講座を開設している。講座内容は企業の事業活動、産業の発展の要となる技術分野、ビジネス分野などに関するもので、さらに現地日系企業／日本企業でのインターンシップを実施することも可能となっている。受講生が講座やインターンシップを通じて日本企業・現地日系企業で求められる能力を向上させ、これら企業への就職につなげることで、企業活動の円滑化に貢献している。

さらに、AOTSは2021年9月に有料職業紹介事業の許認可権を取得し、自主事業として外国人人材紹介サービスを開始した。これまでの活動を通じて構築された各国のAOTS同窓会、日本語教育機関、大学などの独自のネットワークを活かし、労働意欲の高いアジア（ネパール、フィリピン、インドネシア、ミャンマーなど）の優秀な人材を日本企業に紹介すべく、人材紹介サービス事業を行っている。

(2) 日本で働く外国人人材への支援

AOTSは設立初期のころから、産業界で働く外国人のための日本語教育のパイオニアとして、教材やカリキュラムを開発してきた。この経験を活かし、近年は、日本で働く外国人向け日本語教材「ゲンバの日本語」シリーズを開発した。さらに、「ゲンバの日本語」シリーズの単語帳として、実際の現場へのヒアリングをもとに現場で働く際に必要となることばを厳選した単語帳を開発。これまでに「製造業分野」「建設・設備分野」「IT分野」の3種類を出版した。

また現地採用、企業内転勤など、外国人人材が日本企業で就労などをする際に必要となる能力、知識の養成を目的とした「外国人社員ビギナーズ日本語研修コース」を実施している。さらに、日本で働く外国人人材支援に関するプログラムや調査などの事業を公的機関や民間企業から受託し実施している。2021年度には特定技能受入に関するタイ・インドネシア・南アジア

での技能試験実施支援、外国人雇用対策に関する実態調査事業、就労中のインドネシア・フィリピンEPA研修生向け日本語フォローアップ研修、技能実習生向け日本語教材開発などの事業を行った。

終わりに

AOTSは長年にわたり、開発途上国を中心とした海外産業人材の育成に取り組んできた。AOTS同窓会はその成果ともいえ、AOTSでは4～5年に一度、世界中の同窓会の代表が一堂に会する同窓会代表者会議を開催している。直近では2019年8月にA

OOTS同窓会関係者300人以上が東京に集結して第10回同窓会代表者会議を行った。研修後にそれぞれ自国で活躍する人々のこのような大きなネットワークを有する中で、これまでの経験を活かした海外産業人材育成を継続しつつ、日本が直面する社会課題を解決していく、あるいは新たな産業分野における支援ニーズの開拓といった、新しい協力の在り方を模索していく所存である。

(※1) OECD Statによると1960～2020年の地域別ODA受領額は、アジアは7630億USD、アフリカは1兆3410億USD。

(※2) UNCTAD World Investment Report 2022によると開発途上国の地域別対内FDI額

(2021年)は、フローベースでアジアは6190億USD、アフリカは830億USD、ストックベースでアジアは9兆1300億USD、アフリカは1兆260億USD。

(※3) 1997年日ASEAN首脳会議の合意に基づき、1998年に日ASEAN経済大臣会合(AEM-METI)の下部組織の

国際事業体として設立された日アセアン経済産業協力委員会(AMEICC)の支援として事務局業務や拠出金による人材育成を行っている。

(2022年10月13日・公開講演会)

筆者略歴(くわやましんや)

東京大学法学部を卒業後、1977年4月に通商産業省(現経済産業省)に入省。その後、通商政策局経済協力部経済協力課長、経済産業省貿易経済協力局通商金融・経済協力課長、大臣官房秘書課長など様々な役職を経験。2004年より大臣官房審議官、2007年より内閣官房内閣審議官、2008年より経済産業省地域経済産業審議官を務めるなど政府要職を歴任。その後、2009年7月に退官。同年8月に総合警備保障株式会社執行役員に就任。2012年に同社常務執行役員、2013年には同社取締役常務執行役員に就任。2014年よりALSOK常駐警備株式会社代表取締役。2016年6月より現職。

善隣中国塾 公開講演会記録

中共20回党大会の政治局人事と
習近平思想

横浜市立大学名誉教授 矢吹 晋（会員）

筆者は2022年10月21日、国際善隣協会中国塾の講演において第3期習近平体制の人事を予想したが、大外れであった。何をどう間違えたのか。総理李克強の引退は予想どおりだ。李は総理を2期10年務めており、公務員規定に照らして延長はありえない。が、その後継を胡春華副総理の昇格と予想したのは、大外れ、胡春華は政治局委員（常務委員を含めて総勢24名）から格下げされ、中央委員級にとどまった。このような格下げは、中国共産党の人事では、珍しい。

ここで筆者が注目するのは、政治局委員が25名から24名に減じた背景だ。

これは胡春華の総理昇格は無理としても、副総理留任はありうると見られていた人事案に対して、最後の段階で、政治局委員解任が決定されたために1名の補充が行われるに至らなかったためではないか。言い換えれば、国務院総理昇格はないとしても、副総理留任案は最後まで残ったことを意味するのではないか。しかしながら、胡春華はついに政治局から排除された。もう一つの予想違いは、汪洋が常務委員に留任して全国人民代表大会常務委員長に転ずるという予想だ。汪洋は共青团幹部の経歴をもつが中央で出世した胡春華と違って共青团の地方幹部だから、い

わば共青团非主流派である。共青团主流派も共青团非主流派もすべて排除するのが、今回の習近平人事であった。そのような予想も一部で行われていたが、筆者はやはり最後には習近平の左翼路線に対して穏健・温和路線と見られていた汪洋、胡春華の共青团人脈との妥協に帰結すると見ていた次第である。しかしながら、政治局常務委員から共青团人脈は一掃され、習近平一強体制を固めた。筆者が人事予想の間違いを率直に自己弁明したところ、聴講者の一人から、矢吹先生は7名の常務委員中、習近平、趙樂際、王滬寧、丁薛祥の4名を当てたのだから、大間違

表 24名からなる中央政治局メンバー

	生年	年齢	原籍	大学	前 職	現 職
①習近平	1953.6	69	陝西富平	清華大学人文 社会学院	総書記、軍委主 席、国家主席	総書記、軍委主 席、国家主席
②李 強	1959.7	63	浙江瑞安	中央党校	上海市党委書記	総理2023.03予
③趙楽際	1957.7	65	陝西西安	中央党校	紀律検査委書記	全人代委員長 2023.03予
④王滬寧	1955.10	67	山東萊州	復旦大学国際 政治系	中央全面深化改革 委員会弁公室主任	政協主席 2023.03予
⑤蔡 奇	1955.12	66	福建竜溪	福建師範大学	北京市党委書記	中央書記処 常務書記
⑥丁薛祥	1962.9	60	江蘇南通	復旦大学管理 学院	中央弁公庁主任	副総理 2023.03予
⑦李 希	1956.10	66	甘肅両当	西北師範学院	広東省党委書記	紀律検査委書記
張又俠	1950.2	72	陝西渭南	軍事学院	中央軍委副主席	中央軍委副主席
王 毅	1953.1	69	北京	北京第二外国 語学院	外交部部長	國務委員 外交部部長
李鴻忠	1956.8	66	山東昌樂	吉林大学歴史 系	天津市党委書記	
石泰峰	1956.9	66	山西榆社	北京大学法律 系	中国社会科学院 院長	中国社会科学院 院長
黄坤明	1956.11	66	福建上杭	清華大学公共 管理学院	中央宣伝部部長	広東省党委書記 2022.10
何立峰	1957.5	65	広東興寧	厦門大学財政 金融系	国家発展改革委 主任	国家発展改革委 主任
何衛東	1957.8	64	江蘇東台	中央党校	軍事委副主席	軍事委副主席
馬興瑞	1959.1	63	山東鄆城	ハルビン工業 大学	新疆ウイグル自治 区党委書記	新疆ウイグル自 治区党委書記
陳文清	1960.1	62	四川仁寿	西南政法学院	中央書記処書記	中央政法委員会 書記2022.10
陳敏爾	1960.9	61	浙江諸暨	中央党校	重慶市党委書記	天津市党委書記 2022.11
劉国中	1962.7	59	黒竜江望奎	ハルビン工業大学	陝西省党委書記	陝西省党委書記
尹 力	1962.8	59	山東臨邑	ロシア医学科 学院	福建省党委書記	北京市党委書記 2022.10
袁家軍	1962.9	59	吉林通化	航空航天部第 五研究院	浙江省党委書記	重慶市党委書記 2022.11
李書磊	1964.1	58	河南原陽	北京大学中文系	中央宣伝部副部 長	中央宣伝部部長
張国清	1964.8	58	河南羅山	清華大学経済 管理学院	遼寧省党委書記	遼寧省党委書記
李干杰	1964.11	58	湖南長沙	清華大学核エネ ルギー研究所	山東省党委書記	山東省党委書記
陳吉寧	1965.2	57	吉林梨樹	英ロイヤルポリ テク・インスティ テュート	北京市党委副書 記	上海市党委書記 2022.10

注 党大会以後に明らかになった現職および2023年3月に予定されている人事には年月を補足した。

いではないと慰めてくださる方がいた。なるほど外れたのは李強、蔡奇、李希の習近平側近3名であり、数字でいえば過半数は当たったが、予想の真の課題は、共青団系の排除の可否にあり、この点で習近平は鄧小平期の「改革開放」に固執する人々を習近平路線への抵抗勢力と見做して排除し、習近平路線への転換を強引に進めた。この人事の背後を分析してみよう。

まず国内の条件から。政治報告から、習近平2期10年の成果を点検すると、**①脱貧困作戦**：この成果は明らか。経済成長の結果として格差も生じたが、全体として所得底上げとなった。**②経済成長の量的発展から質的発展への転化**：これは多面的だが、その成果は明らかだ。**③政治の全過程に人民民主主義が導入された**：この評価には〈習近平独裁〉論に凝り固まっている日本では異論が多いかもしれない。しかしながら、政治報告や党規約の改正において、多くのグループ会議が繰り返された経過を読むと、約一億の党員間で、あるいは2300名の大会代表を中心

に膨大な党内民主主義的討論が繰り返された経過がよくわかる。**④中国的特色をもつ大国外交により、人類運命共同体が推進された**：一带一路構想も着実にルートを広げている。これは西側では「戦狼外交」と揶揄され、力によって現状変更をはかる「覇権主義」と批判された。**⑤ゼロコロナの人民戦争**：人口百万当たりの死者数を比較すると、中国は米英と3ケタ違う。いわゆるG7の先進国は「揺りかごから墓場まで」の社会福祉政策を自慢してきたが、実際には旧植民地からの移民労働者は、移住先の旧宗主国の3K労働を担いながら、コロナに罹患したまま治療を受けずに職場に出かけ、コロナウィルスの運び屋になった。コロナ死者率比を見ると、中国の勝利は明らかだ。**⑥党の整風により、自己革命をやり、社会革命を導く**：汚職摘発の活発化は特筆すべき成果を上げている——これら6項目の内容は、習近平期に独自の成果というよりは、江沢民・胡錦濤の施政期の延長上の成果も含まれる。しかしながら、習近平が「新時代のマルクス

主義」の旗を掲げることによって、先富論から「共同富裕論への転換」の方向性が与えられたことは否定できない。習近平は一連の成果を踏まえて、一強指導体制のもとで、この共同富裕路線をさらに発展させる由だから、その成果を注視したい。要するに、習近平は執政11年目に初めて自前の執行部を擁するに至った。習近平第1期(2012～2017)は彼自身を除いてほとんどのメンバーは胡錦濤執行部の選んだ顔ぶれだ。習近平第2期(2017～2022)は党中央書記処や軍の一部に父習仲勲の盟友・西北幫を加えたものの、行政の執行部・国務院は李克強の率いる共青団人脈に握られて、党政分離という官僚主義システムに阻まれて、隔靴搔痒の気分を味わった模様だ。習近平の思惑どおりには政策の展開を進めることができなかった。カリスマ性をもつ毛沢東でさえも党内官僚主義に手を焼いたことは有名な話だ。習近平の指示が中南海の赤い壁を越えられなかったのはさもありなんとと思われる。

習近平第2期（2017～2022）の治世が始まった途端に彼は慣例を打破して、習近平第3期（2022～2027）作りに着手し、その結果が上述の習近平一強（独裁）体制の確立であった。常務委員の序列2位の李強は2023年全人代で國務院総理に選ばれるのが慣例だ。李強の前職は上海市党書記であり、中国最大の経済都市上海のトップが國務院総理に抜擢されるのは不思議ではない。李強の後任には北京市副書記から陳吉寧がすでに就任している。序列3位の趙樂際の前職は紀律検査委書記であり、汚職摘発に辣腕を振った西北幫の腹心は、全人代委員長に明春就任する。序列4位の王滬寧は明春全国政協主席に就任する見込みだ。序列5位の蔡奇の前職は北京市党書記で、冬季五輪の采配を振った。蔡奇は中央書記処常務書記として、中央の党務を総括し、習近平総書記を支える。李強総理を支える常務副総理は、序列6位の丁薛祥だ。彼は党中央弁公庁主任として習近平弁公室の事務処理一切を支えてきたが、今度

は國務院に転ずる。序列7位の李希の前職は広東省党書記だが、今度は中央書記処書記と紀律検査委書記を担当する予定だ。李希の後任には、黃坤明がすでに広東省党書記に就任している。次に、政治局委員24名の顔を眺めてみよう。その出身母体は党中央各部長級幹部および國務院各部長級幹部の出身者が12名、直轄市や省級書記から選ばれた者が12名、半々である。党中央各部・國務院各部の内訳を見ると、従来は「党政分離」の建前から國務院各部のうち重要部門に対しては政治局委員ポストが割り当てられる慣例があったが、今回は國務院から外交部長の王毅と發展改革委の何立峰の2名しか選ばれていない。ここから察せられるのは、習近平は鄧小平時代の「党政分離」を放棄して、「党政一体化」の行政を目指しているように見える。「党政分離」という官僚機構のカベが習近平思想による行政の推進にとって障害となり、このカベを「党の一元化指導」により突破することを目指しているように見える。

この「党政分離」からの逆行は、何を意味するのか。米国の対中封じ込め（デカップリングという分断策）に對抗しつつ、硬軟両様の構えで臨機応変の対応をはかるためには、習近平の指示が直ちに反映される体制が望ましいであろう。毛沢東は文革により、官僚主義との闘いを進めたが、結果的には失敗した。習近平は毛の失敗をどこまで学んでいるか、その学習結果が問われることになる。24名の政治局委員の半数はいわゆる省級書記から選ばれた。北京〓蔡奇・天津〓李鴻忠・上海〓李強・重慶〓陳敏爾の4直轄市は、いわば指定席のように政治局委員に選ばれる。残りの8名は、広東〓李希・山東〓李干傑・浙江〓袁家軍などの人口の多い省から選ばれるのは慣例だが、今回目立つのはまず陝西〓劉国中だ。ここは習近平・習仲勲父子の地元だ。ついで福建〓尹力は習近平が省級書記として最初に赴任した地だ。尹力はすでに北京市党書記に栄転した。少数民族地域としては、ウイグル族問題が話題になった新疆自治区書記〓馬興瑞

が選ばれた。最後に国有企業の多いことと有名な遼寧Ⅱ張国清書記も政治局入りした。最終学歴の専攻を見ると、軍の2名を除く22名の内訳は、文系16名、理系6名である。しかしながら、ポスト習近平の指導部を構成するメンバーになる可能性をもつ陳敏爾以下の若手8名を見ると、文系3名、理系5名であり、理系専攻者が63%を占める。IT分野に強い若手が選ばれていることが察せられる。

今回の政治報告の基調を昨年秋の「第三の歴史決議」と読み比べると興味深い。この「決議」で採択された骨子が政治報告や党規約改正に反映していることが明瞭に読み取れる。筆者は「歴史決議の舞台裏を読む」(『善隣』2022年2月号)で、次のように分析している。――決議の中心を一言でいうと、習近平を、A1「党中央の核心」的地位およびA2「全党の核心」的地位に位置付けたことが一つ。筆者はこれを「二つの核心」論と名付けた。これは今「二つの確立」と呼ばれ

ている。もう一つは「習近平思想」をB「新時代の、中国的特徴をもつ社会主義思想」と規定したことだ。A1「党中央の核心」的地位とは、「集団指導体制からなる党中央」の核心的意味であり、習近平を核心とした党中央指導部の意である。いわゆる集団指導体制のもとの総書記の地位は、政治局会議の司会役、まとめ役にすぎず、採決においては他の委員同様に投票権一票をもつにすぎない(ただし、中共中央軍事委員会における習近平主席の地位は、法的に別格だ。副主席2名、委員4名、都合7名からなる軍事委員会において、会議招集権および決議案の決定権は、非制服組の習近平軍委主席(党総書記、国家主席)ただ一人にある。他の制服組6名、すなわち他の副主席および委員数名は、決議を執行する役割を担う。この意味で、人民解放軍はどクーデタに不向きな軍隊はたぶん存在しない)。次にA2「全党の核心」的地位とは、党大会の多数によってさえも、習近平の指導的地位を覆すことはできない、下克上は不可といっ

た意味であろう。この規定は、一見奇妙に見えるが、実はBの規定を言い換えたものだ。すなわち、習近平思想Ⅱ「新時代の、中国の特色をもつ社会主義思想」であり、これを「全党の指導的地位」におく、ことを決議したわけだ。ここで「新時代」とは、〈21世紀の現代〉の意であることは自明だが、社会主義を形容した「中国の特色」とは何か。これはいくつかの与件を数えられるであろう。

まず何よりも①マルクスが〈先進資本主義国における社会主義革命〉を想定したのに対して、中国は〈帝国主義に寡奪される半植民地、従属国〉であった。

マルクスの想定した②ヨーロッパ〈諸国民国家の人口〉は数千万単位であり、4億5億という規模とはスケールが異なっていた。この2点だけを見ても、マルクス主義の直接適用は不可能であり、「マルクス主義の中国化」は不可避であった。

歴史決議はまた、「中国各族人民の共通の願望」として、「中華民族の復

興」という課題を掲げている。「中国各民族人民」からなる③「中華民族」というコンセプトがいわゆる *nation states* を構成する西欧諸国の *nations* と著しく異なる点も明らかだ。

ヨーロッパの「近代化」は、ギリシャ・ローマ文化の復興（ルネサンス）から出発したが、中国の「現代化」もまた④「中華文化の復興」を目指している。習近平のいう「新時代」が21世紀を指すとすれば、それがデジタル時代であることは明らかだ。そしてデジタル時代の社会主義とは、すなわちデジタル・レ・ニン主義にほかならない。筆者はこれを「電腦社会主義」と呼ぶよう提案している（矢吹晋著『中国の夢—電腦社会主義の可能性』花伝社、2018年、および『中国の時代』の越え方』白水社、2020年）。

中国共産党は、建党百年の歴史（1921〜2021）を誇るが、毛沢東晩年の個人崇拜期とこれを批判する鄧小平流の集団指導体制期が鮮やかな対照を示す。習近平の「二つの核心」論は、いわば両者の折衷案であろう。鄧

小平流の「集団指導体制」を与件として、その枠内で「習近平のリーダーシップを突出させる試み」、と筆者は歴史決議をめぐる党内闘争を分析した。歴史決議をいわば中間ステップとして、習近平は今大会を通じて習近平「一強体制」（敢えていえば独裁体制）の構築に成功した。共青団人脈を指導部から一掃することによって、習近平思想に基づいて電腦社会主義を強力に推進する体制を整えたわけだ。20回大会時点では〈習近平思想〉とつづめるまでは至らなかった。鄧小平理論の堅持を主張する「共青団に象徴される抵抗勢力」のために、その段階には至らなかった、と読む。「習近平」と「思想」との間には、若干の形容句を挟んでいるが、この形容句を削除して、毛沢東思想なみに、いずれ「習近平思想」と名付けられるのは時間の問題であろう。革命期の中国を導いたのが毛沢東思想とすれば、「電腦社会主義を導くのは習近平思想だ」という自負があふれている。革命期は毛沢東思想に依拠し、電腦社会主義の建設は習近平思想に依

拠するというわけだ。

鄧小平の改革開放政策は、毛沢東時代から習近平流の電腦社会主義建設期に至る転換期を結ぶ過渡期の理論にとどまるという位置付けになる。このような政治の文脈で読むと、共青団派に象徴される政治勢力は、まさに過渡期を担った政治集団にほかならない。習近平の電腦社会主義が新たな歩みを始めるに際して、抵抗勢力あるいはブレーキ役に転化した。胡春華が政治局から排除されたのは、彼個人の能力の問題ではなく、「鄧小平時代への訣別」の象徴として棚上げされたと私は読む。さて、習近平に迫って一強指導体制、電腦社会主義への転換を強く迫った国際の要因は何か。ズバリ一言でいえば、トランプ政権およびバイデン政権による対中封じ込め政策にはかならない。トランプ政権は「中国を標的とした8か条の命令」(Executive Orders Directly Targeting China)を2017年12月から2021年1月にかけて下した。同時に「中国を直接標的としてはいいないが、標的に中国が含まれ

る7か条の命令」も加えて、中国封じ込め15か条の政策を展開した。トランプの後継バイデン政権も、対中封じ込め政策を継承し、中国の経済成長を抑止する政策を一見目立たない形で展開した。超大国・米国のこの種の陰陽両面にわたる圧力は、中国経済の弱点を直撃しようとするものであった。2019年5月、筆者は2018年夏に次いで再度招かれて、北京五輪の施設として建設された通称〈鳥の巣〉で開かれた〈アジア文明カーニバル〉なるイベントを参観して、中国5Gの威力を見聞いた。これは習近平のイニシャティブで開かれた、時代を画するイベントであり、この年11月から全国主要都市で商業サービスが始まる5Gの首都北京におけるお披露目イベントでもあった。筆者は2018年夏に人民大学シンポジウムで見聞いた反習近平ムードが一掃されている事実を、半ば予想しつつも、〈鳥の巣〉イベントにおける習近平の陣頭指揮ぶりに、あらためて強い印象を受けた。習近平任期を〈2期10年に限らず、5年延長をはかる〉

構想に対する党内幹部たちの強い反発は、トランプ政権の乱暴極まるデカップリング政策のもとで雲散霧消したように見えたのだ。習近平が自らを突出させ、指導部の固い団結を呼びかけたのは、トランプ政権の〈強圧政策に抗するため必要悪〉であることを、習近平の反対派陣営は納得せざるを得なかった模様だ。要するにトランプ政権の中国封じ込め政策こそが習近平への権力集中にとって最大の援軍となった。強大な敵側の攻勢の前で弱者を意識する側が団結を余儀なくされるのは、自然の成り行きなのだ。過渡期をつないだ江沢民や胡錦濤のように、集団指導体制に流されて、リーダーシップ不在に陥ることも避けた。これが江沢民（胡錦濤）の執政時代20年間に途方もない汚職構造と官僚主義を生み出したからだ。しかしながら、習近平はこの汚職構造に果敢に挑むことによって、汚職にまみれた政敵を打倒するとともに、奪権闘争に成功した。その辣腕は端倪すべからざるものがある。顧みると、2017年に第2期習近平政権が

スタートしたとき、彼は冷たい視線で迎えられた。――〈5年後、すなわち習近平引退後を見よ〉、という時間待ちの視線にはかならない。鄧小平期に確立した指導部の〈2期10年制論〉によれば、習近平の2022年引退は既定の事実だ。習近平が2期10年の期間に行った粛清は、2022年以後の新しい執行部がすべてこれを覆す。これが習近平の「虎退治」で追われた旧指導部、追放組のカゲの声、合言葉であった模様だ。習近平は「虎退治」の未完成に気づいた。いったん退治された大虎小虎は、5年後の復活（復辟）を目指して隠密の地下活動、蠢動を始めている。これを察知した習近平は早速行動を起した。

まず憲法改正により、〈2期10年という枠組み〉の修正に着手した。この地下潮流を私は幸運にも直接体験したように思う。2018年夏、筆者は北京の中国人民大学マルクス主義学院のシンポジウムに招かれた際に、習近平の「3期15年構想」に対する反発の巨大なうねりに接して衝撃を受けた。シ

ンポジウムに参加した中国側参加者数十名の報告要旨は、いずれも習近平の3文字に誰一人として言及しなかったのだ。報告ペーパーに習近平の名を書いたのは日本人1人（矢吹）と米国研究者3名だけであった。矢吹報告の骨子は、毛沢東の左傾路線と鄧小平の右傾路線を折衷したところに、中国電脳社会主義の可能性、現実性ありと分析し、それが習近平路線の内実になるう、とする予想であった。これは同大学の『紀要』に掲載すべく校正まで済ませたが、未だ刊行には至らない。要するに習近平のへ2022年3選拒否ムードが、2018年夏、人民大学マルクス主義学院シンポジウムにおける中堅党員幹部たちの思考を覆う反応であった。孤立気味の習近平にとって最も強力な援軍が、トランプ政権から届いたのは、現代の国際政治ドラマの皮肉な巡り合わせだ。トランプ政権は、上述のように、18本の大統領命令を下して、中国封じ込め政策、すなわちデカップリング論を一步一步推し進めた。この突然の乱暴な対中政策

に接して、党内は一致団結して対米交渉に当たる、いわゆる「戦狼外交」が支持され、逆に「韜光養晦」（＝隠忍自重）路線が敗北したのである。

対外的条件だけではなく、国内政策においても不動産ブームの暴走やアリババの挑戦が市場管理の枠に抵触し、その是正措置もスタートした。マンション価格が平均年収の20年分といった暴騰は問題とすべきだし、流通革命に成功したアリババの貢献は認めるとしても、アントの暴走には問題がある。市場管理の機能はやはり国家に委ねるのが当然だ。アリババの消費者金融業務の行き過ぎを是正するのは当然なのだ。そのような「行き過ぎた先富論」にブレーキをかけ、共同富裕論の正道に戻すことは電脳社会主義の道の不可欠の要素であろう。

最後に米中関係を展望して結びたい。バイデン政権は2022年10月、台湾政策法を提起して、台湾のウクライナ化を宣伝し始めた。NNMAすなわち非NATO加盟国だが、重要な同

盟国（Non NATO Major Ally）として台湾を加えること（DESIGNATION OF TAIWAN AS A MAJOR NON-NATO ALLY Section 517 of the Foreign Assistance Act of 1961）を、ウクライナ戦争の最中に、この戦争イメージと重ねる形で再確認し、「台湾有事」を強調するのは、いかにもキナ臭い。台湾海峡で局地的な軍事衝突を引き起こし、中国経済の躍進にブレーキをかけたいという陰謀が繰り返されてきたが、今回は最後のチャンスだとする怪しげな観測が意図的に流されている。習近平政権はこれに対して「戦狼外交」的言辞は用いるが、台湾の武力解放の意図は毛頭ない。彼らの選択肢にあるのは、平和的統一だけだ。元来が日清戦争によって割譲された領土の回復である以上、軍事力の使用は、そもそもありえない。中国当局の平和的解決という立場を理解しつつ、それでもやはり、米国側が台湾の武力解放を恐れるのはなぜか。TSMC台湾積体の半導体工場が中国政府に接収される事態を恐れているのではない

か。TSMCは寧波生まれの中国人ビジネスマン張忠謀（モリス・チャン）がテキサスインスツルメンツでの25年の体験を踏まえて世界初のファウンドリー型半導体工場として台湾新竹のサイエンスパークに設け、スタートした。私は台湾留学生に道案内されてこの工場を80年代末に訪ねている。TSMCは今や世界市場シェアで6割を占め、時価総額はトヨタの2倍だ。線幅5ナノメートルの微細加工はTSMCと韓国サムスンの独壇場である。2025年には2ナノメートルの量産計画を予定している。世界最先端の半導体工場が中国に奪われたら米国は経済だけでなく軍事力の心臓部がマヒする。TSMCの半導体は現在中国市場にも供給されており、これを奪う必要性は皆無だ。中国国内ではSMIC（中芯国際）に巨大投資を行い、微細加工技術でTSMCに肉薄しようとしている。追いつきはやはり、時間の問題であろう。日本はトヨタを含む8社連合でラピダスを創設し、EV車対策に乗り出したが、この寄り合い所帯がエルピーダメ

モリ失敗の二の舞にならなければ幸いだ。EV車成功のカナメは、多分通信衛星技術との連携にあり、この認識が日本で欠けているのは致命的に見える。神舟15号は11月29日に打ち上げに成功し、乗組員の費俊竜、鄧清明（船長）、張陸の名が発表された。2016年の量子実験衛星墨子号の打ち上げ成功以来、中国の宇宙開発は眼を見張る成果を挙げている。一連の宇宙プロジェクト責任者たちが科学技術の最先端に集し、軍事委の先頭に立つ。軍事委メンバーは、次のとおりだ。主席習近平はただ一人の文官として、委員会の開催を招集し、決議の決定権をもつ。副主席2人と4人の委員は習近平の決定を執行する役割のみをもつ。副主席の一人は、顧問格の張又俠（習近平の父習仲勲の盟友）であり、もう一人は現役トップの何衛東上将64歳だ。軍事委メンバーは、①李尚福委員は1958年2月生まれ、64歳、江西省興国人、陸軍上将、中央軍委裝備發展部部長兼中国有人宇宙飛行プロジェクト総指揮（これは宇宙戦争の準備に備える）。②

劉振立委員は1964年8月生まれ、58歳、河北省栾城人、陸軍上将、連合参謀部参謀長。③苗華委員は1955年11月生まれ、67歳、江蘇省如皋県、中央軍委政治工作部主任、海軍上将。④張昇民委員は1958年8月生まれ、64歳、陝西省武功人、陸軍上将、中央軍委紀律検査委書記。

シビリアンコントロールの習近平および顧問格の張又俠を除く制服組の軍事委メンバー15名の年齢層は、64歳組の3名（何衛東、李尚福、張昇民）が中心で、この三角構造に、監督の必要上年長67歳の政治部（苗華）と若手の参謀部58歳（劉振立）が連絡役として加わり、五角構造の調整に走る構図である。この精兵簡政体制は従来の各兵種・軍種の代表からなる大人数の軍事委と比べて際立った対照を示す。ズバリ一言でいえば、宇宙戦争に備える宇宙シフトなのだ。その花形が李尚福（中国有人宇宙飛行プロジェクト総指揮）だ。

（2022年10月21日・公開講演会）

羊飼いは羊を知っている

「理想の社会を実現するには、国家経営に人を得なければならぬ」という答えにたどりついた松下幸之助のモノの見方

佐藤嘉信（会員）

国際善隣協会で、お会いする方々に、共通のスピリッツが流れているように思う。

それは「一生勉強」「一生青春」。歳を重ねても学ぶことを楽しみ、いつも心に若さを保つ人はイキイキしていて人をひきつける魅力がある。私が縁のあった松下幸之助は、「一生勉強」「一生青春」を貫いた人だった。日本や世界の行方を案じて、10年以上構想して将来を担う指導者育成の私塾を開いた。昨年10月から3回、善隣で知り合った会員を茅ヶ崎の松下政経塾に案内した。

昨今の世相の中で

英国ではトラス首相が「私は負託にこたえられない」と英国史上最短の45日で辞任、人気取り政策に暴走の末にと報じられた。昨今、世界中で政治家の資質や、不祥事を起こした指導者の資質が問われている。弁解や言い逃れで責任を持たない無責任は日本でも起きています。

政治・経済で活躍するリーダーの言動を追跡する研究者がいる、そのリポートをいくつも読んでみた。目についたアメリカのリポートは、「知見や

スキルを持ったリーダーは、多くを知っているため注意深い」「知見や経験のない人ほど断定的に話す」「人は強い調子で断定する人に、ひかれてしまう」「自己顕示欲の強い権力志向の無能なリーダーが排出されやすい」という。

インターネット社会になり、ネット上は1億総評論家、1億総批判者の様相がある。批判はするけれども、他人事で終わらせてしまう風潮もある。世界に戦争、インフレ、パンデミック、地球環境など、この先に不安を感じ、国の将来を憂えておられる方も多いだろう。

松下幸之助は、松下電器（現パナソニック）、PHP、松下政経塾と3つの事業を通して、人類の繁栄・平和・幸福を希求し、何が必要かを考え抜いた。そのモノの見方や考え方が、今の時代に、何らかの参考になればと思い松下政経塾に案内した。松下幸之助のモノの見方や考え方の一端をエピソードをまじえご紹介する。

塾生に与えているテーマ、まず「人間を知れ」、羊飼いは羊を知っている

松下幸之助は、松下政経塾々生に「人間を知れ」と問う。父親の事業の失敗で家族離散、9歳から奉公に出ざるをえなかった松下幸之助は学問も知識もなく、両親や兄姉を早くに亡くし頼る人もなく天涯孤独となり、すべてのことを、体験を通じて社会から学んでいる。晩年「人に恵まれ今日がある」と言っていた。人を募集しても誰も来ない小さな規模から仕事を始め、採用しては人を育て、「なぜ人間はこんなに成長するのか」、能力がないのではない、「人間は誰しも素晴らしい、

本質はダイヤモンド」、「人間には無限の可能性がある」という人間観があった。「人間を知れ」と問うのは……人間は長い歴史の中で、科学、教育、道徳、宗教をはじめ学問や社会制度などが進歩し、文化が進み文明が発達してきたが、「人間はつねに繁栄を求めつつも、往々にして貧困に陥いる。平和を願いつつも、いつしか争いに明け暮れる。幸福を得ようとして、しばしば不幸におそわれている」。本来、繁栄・平和・幸福の実現を望んでいるはずの人間がなぜ不幸を招来するのか、なぜだろうか。たとえるなら、羊飼いは羊を知っている。優れた羊飼いは羊を思うままに飼育し、立派な羊に育てあげる。その秘訣は羊の性質をよく知りつくしているからだ。もし、馬や牛、犬と同じようなものだと考えたら、殺しかねない。羊の特質を十分研究してはじめて羊飼いと成功する。私たちの世界は、人間が人間を動かす、人間が助けあう社会。社会を見ると商売や経営ではお客さま、従業員を、政治では有権者や官吏を動かして

いる。人間がする政治で、人が苦しむこともある。私たちは人間について熟知していなければならない。

人間はちっぽけなものではない、繁栄・幸福・平和をつくりだす可能性を持っている、人間の本質を正しく理解しない、人間不在の政策は論ずるに値しない。そこで「人間を知れ」と問う。

国民はみずからの程度に応じた政治しかもたえない。覚悟をもった人がいなくなったらこの国は空っぽになる

1976（昭和51）年当時の政治状況について、松下幸之助は「国民が政治をあざけり笑っているあいだは、あざけり笑いに値する政治しか行われない」、「民主主義国家では、国民はその程度に応じた政府しかもたえない」、「国民一人ひとりがもっと自分のこととして政治に関心を寄せ、家庭や学校でも政治の大切さを育てる教育が大切、有権者の眼力も試される、と自著やメディアで訴えた。戦争体験の切実な反省から、人間は国を興すこともあるけれども国を滅ぼすこともある。戦を収

めることもある、戦を起こすこともある。もし「政治は誰かがやってくれる」という人ばかりになって、「自分が率先して良いほうに向ける、国家国民を第一に、世界人類の繁栄・平和・幸福を心から考える、一片の私心もない」覚悟のある人がこの国にいないければ、この国は空っぽになる、という危機感があった。経営者といえども、一国民として政治に提言しなければなら

ないのではないかと、「繁栄による平和と幸福」を研究するために1946（昭和21）年にPH P研究所（Peace and Happiness through Prosperity）を設立し、それ以来、政治に提言し続けた。

政治を「国家経営」と考えた

政治の良し悪しは戦争の上手下手よりも恐ろしい

松下幸之助は自らの体験から、「国民活動のすべてに影響を及ぼす政治がよくなければ、まともな企業活動もできないし、国民の幸せもない」政治の良し悪しは、戦争の上手下手よりも

恐ろしい」と。

目標や計画を立てて行うことはすべて経営ととらえていた。政治は国家や国民を対象にした国家経営。経営の目で見れば、理解できない非効率。国家や国民のことより、自分の選挙や名誉や立場にとらわれ、金に執着し、金のかかる政治。こんなことを経営でしたら、すぐに会社はダメになり、倒産する。けれど、国は倒産しない、親方日の丸、国民の税金をムダにしても、政治家も官僚も平気でしている。

何が正しいか、何が国民の喜びにつながるのか、も考えない。21世紀の日本をどうすべきか。世界にどう貢献していくのか。その政治哲学は何か、力強く活動をする政治家が非常に少ない。

そのことばはおやめください

ある席で大臣もつとめるような政治家が自分は公僕である、公僕として国民に奉仕すると言ったので、松下幸之助は即座に「どうぞ公僕という言葉はおやめいただきたい。あなたは主権者の代表です。公務員は公僕として国民

のために奉仕する立場にあります、あなたは公僕でない、主権者の代表としてその地位にある重要な立場です。もし公僕であるとお考えなら、そこからは一役人の見識しか生まれません。主権者の代表としての見識や理念は生まれません。政治家は公僕であってはなりません。そこから日本の政治の弱体性が生まれます、公僕ということばをおやめいただきたい」。

すると政治家は「君に、そう言われるとそうだなあ、いままで公僕と言ったけれども、これからは考えなければいけないなあ」。「ぜひそうしてください、主権者の代表という意識のもとに、国家経営者にふさわしい見識なり理念が生まれると思います。そして国を預かる国家経営者として事を決してもらわなければなりません。ですからそのことばはおやめいただきたいと思います」と。

「崩れゆく日本をどう救うか」を執筆し、警鐘を鳴らした

日本は戦後、奇跡の繁栄を続けてき

だが、松下幸之助の目で見ると「沈没寸前の日本」と映ったのだ。

自著『崩れゆく日本をどう救うか』は1974（昭和49）年のベストセラー、危機の指摘と同時に、教育、物価、国政について提言している。徳川時代に長崎の奉行に命令するとき、速い手段は早馬、飛脚。今だったら1分間の電話ですむ。したがって、政治費用は、何百万分の1。

技術が進化し便利になったことで、人的・時間的コストが削減され、効率的に処理できる。効率化しない政治に警鐘を鳴らしている。物価は1000倍、賃金は1300倍、だが国費は13000倍（昭和10年比）。なぜ政治にこんなに金がかかるのか。「政治が国民に甘え、国民も政治に甘える、ここに日本の危機がある。戦後30年の間に物も増えて繁栄している、一面では復興しつつある。しかし、他の面をみると、復興は本当の復興ではない。政治・経済・教育の3つ大きなものがゆきづまっている。復興に似たもの日本はゆきづまり崩れ去る」と（松下幸之

助が指摘した日本の危機は今も続く、2022年3月現在、税収で返済すべき長期債務は合計額で1017兆円、極めて深刻な財政問題を抱えている）。最後にこう結んでいる。「日本を救うために、一人ひとり、思想にせよ信条にせよ、それぞれに異なっている。しかし、対立しているときではない。そういう思いをそれぞれの立場でやっていくべきとき、ぜひともそうあってほしいと思います」。

88歳の誕生日に、しのび寄る危機を憂えて「決意広告」を出す

しのびよる危機を憂えて、85歳の高齢で松下政経塾を開塾した、その後の5年間は大阪から頻繁に茅ヶ崎の塾に来て、茶室もそなえた松心庵に泊まり込み、塾生たちと語りあい、彼らを育てた。塾生に「君たちは、僕より新しい時代に生まれた、僕より偉くならんとあかんで」。また、「特定の師を持つてはならぬ。塾生にとって、僕は1人の師であっても、唯一絶対の師ではない。自修自得で僕を越えろ」と。

88歳の誕生日をむかえた1982（昭和57）年11月、松下幸之助は全国の新聞各紙に5段ぶちぬきの異例の決意広告を出して訴えた。1000字に及ぶ年末をひかえて御礼とご挨拶。

「私は余生を楽しく送れるほどの趣味も持ちあわせておりません、世界も日本も混乱しており、このままで推移するならば、きわめて憂慮すべき事態に直面するのではないかという感じが強くする。昨今、高齢で無理の効かないことも心得ておりますが、せっかくこの世に生きながらえているからには、生まれ変わった気持ちでいささかなりとも社会のお役に立ちたい……豊かな時代には、経済も政治も教育も決して安心できる状態にありません」と、しのびよる危機に死ぬに死ねないその気持ちを訴えている。

山本七平のコメント「大阪商人が政治家を養成するのは面白い」

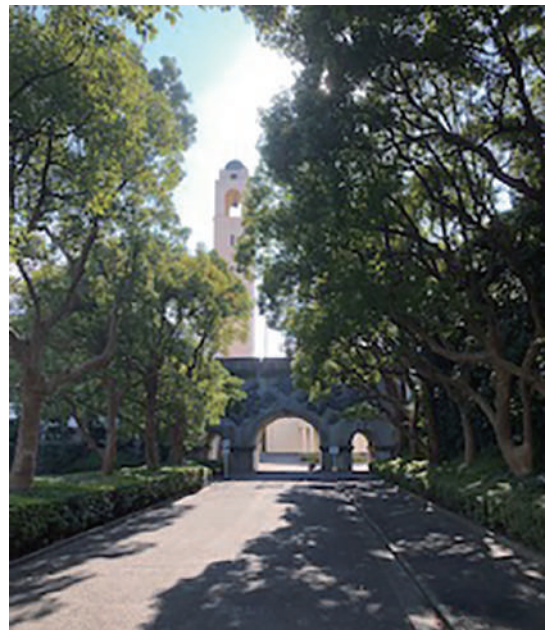
『日本人とユダヤ人』などの著者で評論家の山本七平は松下政経塾の発足にあたって、マスコミに面白い感想を

述べている。

「日本には、社会の秩序を保つのは武士の任務で町人にあらず、という伝統があつて、町人が政治に関係することがなかった。松下幸之助さんという大阪商人が、政治家を養成するのは面白いじゃないですか。経済的合理性を尊ぶ政治家ができるのはいいことです」。

松下政経塾、「自修自得」、研修に打ち込めるよう「研修費支給」

松下幸之助は私財を投じて、1978（昭和53）年9月理想の日本を実現しうるリーダーを育てるために松下政経塾を設立すると記者会見した。一期生に900名が応募し、23人が入塾、1980（昭和55）年4月に開塾した。神奈川県茅ヶ崎市にある、湘南の海に近く、富士山が見えるキャンパス6300坪。研修年限4年、全寮制。受験資格、年齢22歳～38歳、国籍問わず。学びは「自修自得」、生活に不安なく研修に専念できるようにと「研究費支給」、全寮制、授業料はなし。最近では社会人になって入塾する人が多い、医師、弁護



神奈川県茅ヶ崎市にある「松下政経塾」

士、教員、自衛官の経歴をもつ人もいる。専門職を経て入塾する人の共通点は、今の仕事で制度政策を変えるには限界があり、国政志願、地方の活性化を実現したいと地方首长志願者もいる。

松下政経塾の「自修自得」、政治の名人をつくりたい、宮本武蔵のように自ら体得する塾にする

常勤教授がいない教育機関、「経営学や政治学は教えられても、生きた経営や政治は教えられない」「自ら体得するしかない」という松下幸之助は「自

修自得」、政治の名人をつくりたいという願いを、例をあげて説明した。「宮本武蔵に師匠はいない。宮本武蔵は自分であみだし剣聖になった、自分で研究工夫して指導者になったらいい」と。塾生は理想社会ビジョンをつくり自らのテーマにそって各産業、公的機関、海外などの現場に行き解決策を探索する。

設立42年間で、卒業生294人（男性254人、女性40人）。進路は政治50%、経済教育福祉50%、政治、企業経営、社会起業、研究、教育などで活躍するリーダーを輩出、いまだ名人は出ていないが、地盤・看板・カバンがなくても政治家になる道は開いた。松下幸之助に報告できるには道半ばであろう。開塾当初は政治の高等教育機関とまちがえて応募する人がいたが、自修自得の塾である。ちなみに高等政治学を教える米国ハーバード・ケネディスクールでは、学んだ人の1000人に1人しか政治家にならないそうだ。

素直な心をもった指導者になってほしい、国や企業をつぶす人には“私心”がある

松下幸之助は塾生たちに、「自分の名誉や虚栄を求める政治家、選挙ばかりを考える政治家にはなってもらいたくない」。今までたくさんの人を使ってきたが、成功する人も、失敗する人もいた

「賢い人は国や会社を興すが、しかし、賢い人は国や会社をつぶす。賢い人は希望が持てるが、一面、非常に危険である。両者の差は紙一重、どこが違うか煎じ詰めると、失敗する人には名声や自己のためという“私心”があり、成功する人には“私心”がない、賢さは一緒でもちょっと“私心”が入ると非常に差がでる。それは一国の首相でも同じ」。

「地位や名誉にとらわれる」「名声を得たい」「金持ちになりたい」「人気をとりたい」など私心があると、独善的、感情的になり、無理をして自分に都合のよい政治を行う。結果は国民が損害をこうむる。政治家自身も支持を

失う。商売も自分だけもうかればよいとなれば世間に迷惑をかけ自身の信用を傷つける。

「わが身はどうなろうと、国家国民を第一に、世界人類の平和と幸福と繁栄を心から考える、一片の私心もない、とられや偏りのない素直な心をもった政治家になってほしいと願っている」と。

本質を見抜くために松下幸之助が心掛けた“素直な心”

敗戦後の荒廃を目の当たりにした松下幸之助は、物事を正しく見る自らの眼力を養うために日々、心がけたことがある。それは“素直な心”、彼の言う素直は人の言うことに何でもハイハイと答えるということではない。

人間は、知識や経験などを通して、何かしらの思いを持ち、色眼鏡で物事を見る、真っすぐなものも真っすぐに見えない、正しく見えていない。「素直な心で物事を正しく見ることが大事だ」。

囲碁は、1万回くらい打てば初段になれるという、松下幸之助は80歳をすぎ「素直の初段になった」と言った。なぜ



松下幸之助が心がけた「素直」

なら戦後30年間、まず素直な心で朝夕心に思い、実行した。30年やって1万回以上、「素直の初段になった、や」と世の中が少し見えるようになった」と言った。

卒塾生が語る——松下幸之助の面接「君は辛抱できるか」

塾の3期、今は大学教授。最終面接は松下幸之助だった。試験会場に入ったら松下さんが真ん中に座っている。20分くらいのやりとりだったけれど、一言も喋ってくれなかった。じっと睨まれているだけでね、怖い、怖い(笑)。今でも思い出す。最後まで何も喋ってくれなくて、諦めかけたころ、おもむろに手を挙げて一言、言ったの

は、「君なあ、政経塾に先生はおらへんで。5年間辛抱できるか」と。当時は新卒ばかりだったから5年制だった。普通、学校には先生がいる。政経塾は先生がいない学校。与えられた教育に慣れていると、先生がいないというのが信じられない。そんなところで5年間やれるのか、という問いかけだった。それを私は鮮明に覚えている。

それ以来、先生がいない、カリキュラムは自分らでつくれと、こういう塾なのだ。自修自得ができない人間は、政経塾に何年いてもものにならないと言われた。ただ、志を持って俺はこんなことがやりたいのだという人にとっては、こんな良いところはないと思う。

卒塾生が語る——松下幸之助の思い出「猫に小判」

2期生、今は上場会社オーナー社長。私は20代で松下幸之助と出会ったが、これ以上怖い人に会ったことがないというくらい怖い人だった。松下幸

之助が松下政経塾の塾生を叱ったシーンが忘れられない。

「君らは辛酸をなめていない。君らは経営について、心眼が開けていない。だから人の育て方や人の使い方、お得意先に対しての仕事の仕方がわからないのだ。そんなものは（実習した販売店が）全部持っている。猫に小判という言葉があるだろう。君らはその猫に小判だ」。

研修の成果発表で松下幸之助が、眼光鋭く叱った。販売店に経営の大切な要素があるのに、君たちはそれをつかんでいない。「1年間、寮を与えて、生活の面倒を見て、勉強させたけれども、猫に小判だった」と。

85歳の老翁が若者に「猫に小判だ」と突きつける。ここに真剣さが表れている。塾生たちが顔面蒼白になり、凍りついたことはいままでもない。

20代の若者を真剣に叱る、それも3、4時間かけて叱る。そんなことをする85歳が世の中にいるだろうか。

松下幸之助には、欧米のビジネススクールとはまるで違うやり方がある。そ

れは、ある意味で江戸時代の心学者・石田梅岩の考え方に近い。すべてを実感値として自分自身で考えていくという方法だ。「人情の機微が大事」「嫉妬は黄金色に焼くが良し」といった言葉であったり、相手がどう思っているかを察し、気持ちよく働いてもらうためにはどうしたらいいかを考えて動いたりするなど、ハーバード・ビジネス・スクール流の考え方にも、コーポレートガバナンス・コードにも出てこない教えがある。

入塾式で塾生の妻が語る——「今、やっと志願した気持ちがあった、血を吐く思いで頑張れ」

私は毎年の入塾式と卒塾式に参加している。28期の入塾式、2007（平成19）年にはノンフィクション作家の上坂冬子さん（故人）が参加していた。上坂さんが私塾を始めると発表した松下幸之助をインタビューしたとき、「成果が出るには25年かかる」と聞き、25年たった松下幸之助亡きあとの塾を取材に來られた。入塾式のあとは家族や友人関係者でささやかなパーティがあ

る。毎回、全家族がスピーチする。印象的なスピーチを紹介する。入塾生は現任教員で志望動機は教育制度を変えたい、と。

両親と妻と2人の男の子（小学生と幼稚園児）、一家そろって壇上にあった。一家を代表して妻が言った。「ごらんのとおり、主人は一家の柱です、子どもは育ち盛りなので、正直なところ私は不合格を願っていました。一度は不合格で私を喜ばせたが、再挑戦で合格し、複雑な気持ちでした」。

「でも、今日の入塾式に参加して吹っ切れました。2年がかりで目的を達成した主人に、こうなったら血を吐く思いで頑張ってくださいと言いたい気持ちです」。会場からは万雷の拍手が起きた。

人間大事がすべての基本、松下幸之助の哲学

松下幸之助は自らの考えをこう書き遺している。「人間はみな同じだと思うところに経営の基本がある。生活習慣や風習はもちろん違っても、人間

としての基本的なものに変わりはないはずだ。世界30か国に工場を持っている何万人もの外国人が働いている、その経営者として、私の実感は人間みな同じである。人間を大事にする。これが基本だ。松下イズムとよばれるものがあるとすれば、それは人間を大事するということ以外にはない」。

91歳で語る人生で一番うれしかったこと “9歳のときはじめてもらった給金”

松下幸之助が91歳のとき、東京海上で開催の講座で質問を受けた。

受講者から「人生で一番うれしかったことは何ですか？」と問われ、にこりと笑って「9歳で奉公に出て、はじめての給金5銭の白銅貨をもらったことです。9歳で単身、和歌山から大阪に奉公に出て、仕事はさほどつらく感じなかったが、夜寝床に入ると母を思い出し涙する日々が続いた。子どものころ駄菓子を買うのが楽しみだった。奉公でもらった給金は私にとって思わぬ大金、あまりにうれしくてその晩か

ら泣かなくなった」と。
社会人へ目覚めた第一歩だったのかもしれない。

記者の目にも鮮烈な印象の松下幸之助、誰に対しても心から、一人ひとりを尊重

松下幸之助が94歳で死去した翌日、1989（平成元）年4月28日の新聞各紙はそのニュースを大きく報じたが、ある新聞のコラムに、こんな一文が掲載された。「大阪・門真の松下本社に初めて松下さんを訪ね、帰ろうとして車の中から振り返ると、玄関で松下さんが深々と頭を下げていた。ほんの駆け出し記者を相手に『前だれ商法』を絵にしたような姿が鮮烈——」。

松下幸之助は相手によって分け隔てすることなく接し、人の話を聞くことにおいても真摯であった。どんな若い人からの話でも姿勢を正して、みじろぎもしないで聞いた。「全身全霊で聞いている」と多くの人が目の当たりにしている。



教師の昇進問題

小中学高校教師の職称等級は関連政策により構成比率が固定され、競争が激烈になっていた。先頃、人力資源・社会保障部および教育部が出した新しい「指導意見」により長年教師たちを悩ませてきたこの問題が改善されるのではと多くの人が期待している。

新政策では初級、中級、高級教師の構成比率は各省が現地の実情に合わせて定めるものとし、現5か年計画中の参考値として高級教師は全体の

0・5%と提示している。

北方のある都市の教師進修学校の教育研究員、孫さんのような経験30年のベテランは新政策に期待しているという。高級教師は学校ごとに人数枠があり、その職称がなければいつまでも責任あるポストにつけない。地方都市では職称のためにコネや裏口を使うこともままある。

県や郷鎮の学校では「地域限定食糧切符」のように、学校が採用した教師に在籍期間だけ一等級高い職称待遇を与えている。ある高校の校長は、制限緩和で多くの若い人材の成長を促せると期待する。

教師の職位職級問題は教師個人の利益のみならず、教育の地域格差をいかに是正するかという問題に関わる。評価や権利について客観的で公正、科学的な基準が必要だ。

『中国青年報』2022年9月26日

どちらが職業差別か

インターネット上で、江西

省の武功山で駕籠夫の駕籠に犬を乗せる女性の動画が論議を呼んでいる。犬は人より軽いからいいという人もいれば、駕籠夫の尊厳を傷つけているという人もいる。地元の駕籠夫は、犬を乗せることもよくあり、客が金を、自分は力を出すだけのこと、ネットの声など意に介していないと言う。

今年8月には若い夫婦が子どもを駕籠に乗せたことへの批判がネットを騒がせた。旅行ブロガーが駕籠を頼んで山に登った記事をブログに上げると、金で人の尊厳を踏みじったと炎上した。そして今度は犬なので、なおさらたたかれる。

こうした論争は、何が職業の尊厳なのかという共通の認識が未形成であることを物語る。職業の尊厳とは、労働者が正当な労働で合法的な収入を得、労働の権利が保障されることである。いわゆる面子のある仕

事をするということではない。

そのような考え方が暗に一部の職業を低俗だと侮辱していることになる。ペットの飼い主も駕籠夫も正常な労働サービスをやりとりしているだけだ。

『北京青年報』2022年10月6日

副業で猫の世話

国慶節の連休中、北京市のある女性は20匹ほどの猫の世話で4300元ほど稼いだ。

彼女の本業はネットストア管理だが、副業として昨年の9月からペットシッター（寵託師）としてネット登録し、空いた時間に飼い主が留守の家を訪問して、餌やりや水の交換、猫砂の交換と一緒に遊ぶサービスをしている。

ごみ袋を持参でマスク、靴カバー、ビニール手袋を着用、入室から退室まですべてを動画で記録し、作業終了後、水や食糧はあるか、戸締りは万全かなど確認する。すっかり手慣れたものだ。今年の春節は

特に依頼が多く、30件ほどで8千円の収入を得た。1回の訪問時間は30分以上。遠方や休日の場合は割増料金をもらう。常連客も多い。

猫以外に、犬の散歩、カエル、ウサギ、魚、亀、鳥の餌やりをする同業者もいるそう。副業としてのペットシッターは以前に増して盛んになっている。原因の一つはペット自体が増えているということ、もう一つは経済的に必要に迫られ、多くの若者が副業をするようになったということだ。

〔上観新聞〕2022年10月5日

管理費を不払いの理由

近年不動産管理会社とオーナー間のトラブルが多発し、社会問題化している。管理費を期日どおりに払わないオーナー。適切な管理を行わない管理会社。浙江省寧波市象山区人民法院では、2017年から2022年7月までに管理業務契約に関する3308

件の訴訟を扱ったが、うち3227件は管理会社がオーナーを訴えたもので、そのほとんどが、管理サービス費や共用

光熱費、駐車場料金などを請求するものだ。管理費不払い

の原因は実に単純で、管理サービスが劣悪で費用に合わないというものだ。例えば敷地内で車や電動スクーターを盗まれた、水回りのトラブル、共有部分が整頓されていないなど、苦情に対する回答もなく解決もしないという場合だ。

中国消費者協会は2019年に36都市の148の居住区の管理サービス状況を調査採点した結果を公表。平均点は65・14点で及第点。設備施設管理では84・70点と高めたが、秩序管理は59・35点、顧客サービスは54・47点と低かった。訴訟になった場合、管理のまづさによって損失を受けたことを証明できないと敗訴する可能性が高いと指摘する専門

家がいる一方、サービスは周辺住宅区との比較や管理契約に照らして数値化できるとする専門家もいる。

〔法治日報〕2022年11月1日

申込殺到の老年大学

江蘇省常州市の汪さんは老年大学の書画や文学などの講座に申し込んだ。南京市の劉さんは若い頃憧れたダンスを習っている。河北省の李さんは62歳、一人暮らしだが同級生の友人ができ、一緒に生鮮市場にも行くようになった。

高齢者の教育機構である老年大学は政府主導で進められ、公益性が強調されている。近年人気急上昇だ。各地の老年

大学で秋季講座の学生募集が行われたが、受付窓口には長蛇の列ができ、インターネット申込では数分で受付終了になった。瀋陽市の劉さんは家族の手も借りて臨んだが申し込めなかった。

高齢者にとって老年大学は

学びの場であるだけでなく、社交の場にもなっている。毎年定員を増やしているものの依然狭き門である状態は変わらない、と老年大学の運営責任者。新

規開設には、場所や講師の確保、関係部門の審査が必要だ。大学によって管理、責任官庁も資金源、規模も様々だ。

大きい大学では数万人の学生を抱える。入学年齢は50歳から80歳、必要書類を提出するだけで入学試験はない。授業内容は音楽、書画、語学などで選択制、卒業条件や規定はない。学費は多くの場合一科目数百元程度である。

2021年末現在、中国の60歳以上の人口は2億6700万人。これに対し老年大学全体の定員は1000万人程度だ。国務院は2025年までにすべての県、市、区、旗に最低1つの老年大学を設置することを表明している。

〔新華毎日電訊〕2022年11月8日

陶々俳壇

会 句 陶 陶
結 果
2022年4月

兼題 「草餅」「城」

馬場由紀子選

重箱に花弁舞い込む花見かな

橋本紅杓

◎正堂

心のこもった重箱が蓋を開けられ宴が始まった。一ひら二ひら花弁が舞い落ちて重箱のご馳走に華を添えた。

◎二三四

ある意味報告かもしれませんが、お花見ならではの「あるある」につれしくなりました。「重箱に花の舞い散る宴かな」とすると中七がすっきり。

●由紀子

お仏間に今しばらくは雛もいて

◎正子

温もり、香り、余韻を感じます。

初燕屋根に石置く出湯宿

大内善一

◎正子

情景に引き寄せられました。

◎正堂

出湯の宿は屋根に石の置かれた板屋根で趣がある。初燕が今年やって来てかすみ飛んでいる。

◎由紀子

観察が鋭い。温泉に浸かり金の洗濯でしよ

胡を掘るや津軽の不二を背に

〃

◎由紀子

伸びやかで壮大な句。津軽富士とは岩木山。青森といえはリンゴ

◎二三四

が思い浮かびますが、太ぶりのニンニクもつとに有名。まだ雪の残る岩木山を背にした広いニンニク畑で、収穫と春を迎える喜びが重なります。

志願者の籠れる城や草芽吹く

松島二三四

◎明良

戦いの中でも春は変わらないでしょうが悲劇的です。

子のマフラー掛けなおす父国境い

〃

◎紅杓

旅に出て寒さから子を思いマフラーをかけ直す父、子からの寒さの訴えもあったことである。似た覚えを味わう人も多かるつ。

◎正堂

子を気遣い、子の将来を憂えながら、祈りのようにマフラーを巻き直してやる。

ふるりの城に登れば春霞

伊藤正堂

◎紅杓

春になると水蒸気が立ち込め空がぼんやりして遠方が霞んで見える。ほのかな優しい風景であると思うが実際は黄砂を指すともいわれている。

◎正子

のどかな気持ちと春景色が浮かびます。久しぶりに帰省した折、昔子どもの頃遊んだ城址に登ってみると見渡すかぎり春の霞がつつまれていた。こんな景色もおもむきがあつていいものだ。

城山に登る憩いの草の餅

〃

◎明良

山の上での草餅は自然の味に眼下の景色を添えて美味し。

◎善一

わが故里二本松市に「お城山」という、かつて伊達政宗が築城し居住していた城跡が残っている。子どもの頃の遊び場でもあった。そこに昔のヤンチャ共が集り、草餅を食べながら旧交を温めたことを思い出した。

草餅に祖母の思いを伝え聴く

瀬崎明良

◎善一

草餅は三月三日の節句の日に主に用いられ、たまたま祖母の命日に集つて偲ぶ会を開き、祖母が常に語り聞かせてくれた思いを、みんなで偲ぶことであった。

城山に紅梅咲きて白梅虚し

〃

●由紀子

神奈川の城山湖は人工湖で日本で初めて電力備蓄を行った場所でもあるそうです。そこでこの句といつとですが、この題材なら二句できますね。「白梅や城山湖畔明るうし」「紅梅に遅れ白梅虚しうす」

春愁や木瓜太枝をザクと生け

日野正子

◎明良

太ぶりのボケの花はザクと生ける表現にピタリしています。

◎二三四

春愁を断ち切るように「ザクと」木瓜を生けるのでしよう。「太枝」も効いています。

◎善一

そこはかと気だるい春の日に山に行つて木瓜の太枝を採つて家の床の間にザクと生けてみた。なかなか風情がある様になった。

春塵や戦構えの高知城

〃

◎二三四

ウクライナ侵攻に世界が翻弄される昨今、ずっしりきました。

◎由紀子

春塵という大陸からの脅威にも土佐の荒波にも負けない気概というものがここに表れているような気がします。

●明良

故郷のホームで過ごす先輩は高知高校の名投手でした。

あたたかや市場鮎屋のてんこ盛り 馬場由紀子

◎善一

彼岸のころから暖かい日差しが増してくる。この句から昔築地の場外市場ですだれ越しの立喰い鮎屋で食べたことが思い出された。威勢のいい親父のすしは確かにてんこ盛りだった。寿司に限らず特定の食材を好きになるときに好きさだけ一年中食べられるようになり、食材の「旬の時期」がわかり辛くなってきた。

◎紅杓

旬の食材はおいしいだけでなく栄養分も最も高くなっているの体にもいいといわれる。豊洲市場は立派な建物になっているが、旬の魚をたっぷり頂きたいものである。

◎正子

引越の荷の殿に桃の花

〃

◎二三四

引っ越し荷物を山積みし、いよいよ出発しようとする荷車の荷台に、桃の枝が差してある、という景を思い浮かべました。引っ越し業者に依頼して、扉の開まる荷台に運ぶ現代、ちょうど咲いている枝を伐つて、そっと荷台に置いたのか。「殿」という表現に、住み慣れた家への愛着と惜別が感じられるようです。

陶々俳壇

会
句
結
果
2022年5月

兼題 「苺」「福」

馬場由紀子選

山の湯や遠く近くに河鹿笛

大内善一

○正子

このような句を作ってみよう。

○紅杓

山峡の宿で蛙とは思えない笛のような河鹿の鳴き声を瀬音風音に混じり聞きながら湯に浸かる。ゆったりとくつろげる至福のひと時だ。

○正堂

のんびりとした湯宿で無心になっている作者の様子が窺われる。

福島はわが故郷よ桃の花

〃

○二三四

望郷の想い、故郷への誇りがシンプルに詠まれています。作者の心のアルバムに、里山を埋め尽くす鮮やかな桃の花の風景が広がっている、と想像しました。

○紅杓

岸田文雄首相は5日、ジョンソン英首相と首脳会談で福島産のポップコーンを持参し一緒に味わったそう。ポップコーンは福島市の農園の商品で「桃密」が使われている。

●正子

福島の桃は原発の影響でしばらく安値でした。美味しくいただきました。福島だからこそ「桃の花」が効いてくるのだと。

●由紀子

連休や一家至福の苺狩

伊藤正堂

○善一

苺の甘さと平和な家族。

○明良

二つの句題を重ねての表現と家族の連休は平和の世なればこそ。

ふる里はどこを向いても山笑ふ

〃

○明良

山々の緑は豊かに笑みを返してくれるようです。

楓早や若葉あふれて風を呼ぶ

日野正子

○紅杓

楓は秋の紅葉の見事なこと知られているが初夏に萌え出た若葉がやがて薄緑の鮮やかな若葉になり風にそよぐ姿は柔らかくみずみずしい。

○由紀子

楓は花の後、プロペラのよつな種をつける。それだけに「風を呼ぶ」の措辞が効いてくる。

咲き誇り燃ゆる躑躅に何足さん

〃

○二三四

韓国の美湖里一面に咲き誇ったつつじの原を思い出しました。

○明良

緑風やゆつくり過ぎるベビーカー

松島二三四

○正堂

風と季節の心地よさが感じられます。

○善一

空豆の横たわつてる平和かな

〃

○由紀子

あのペロンとした物体がゴロンゴロンと横たわっている景は実に平和そのもの。季節のもの収穫期が平和の中で良かったと東欧を見る姿。

●明良

眼福や峰果つるまで新樹光

〃

○明良

若葉の色も濃さを増し一望の山々に囲まれた景色の見事な表現です。

○紅杓

新樹の反射によつて周囲がみずみずしく見え初夏の樹木は生命力がみなぎる。自然を上手く詠まれている。しかも特選は選ぶ人によつて違います。

○正子

○正堂

○善一

○由紀子

景の雄大さと新樹の美しさ。「眼福」という措辞は句を殺してしまつてが多いのだが、ここでは生かされている。俳句のもつ文学性をよく理解したものだけができる技とみた。

ロシア侵攻思い起こすは戦後帰国 橋本紅杓

○明良

あの時は四人部隊と言われてましたが、今も露軍は略奪をするようです。

紅白にあやなす苺ショートケーキ

〃

○明良

あやなすが洋風ケーキと重なり思いがけない風情を醸しています。

●由紀子

確かに、おめでたい色合いですね。

孫の笑み見たさに求める苺かご

瀬崎明良

○正堂

○善一

幸せそうな風景。

若き身はすつばき苺を頬張りぬ

〃

●由紀子

「若さとは苺酸っぱき日の記憶」に。

青風寂しくなれば膝を抱く

馬場由紀子

○二三四

○正堂

「膝」小僧で加藤登紀子の唄を思い出しました。

食麺麴に沁みる牛酪花は葉に

〃

○二三四

葉桜になれば花見弁当のトーストに花卉が舞い、付着することもないであろう。

○紅杓

「ちょっと一言」

句会では各々が良いと思った句を選んでいき、それが句の得点になります。たくさんの方が選ばば高得点となります。その中で皆さまに「特選」の句を選んでいただくようにしているのですが、必ずしも特選句が高得点となるわけではないのです。普通選でたくさんの方に支持されている句、選は少ないけれど特選として選ばれている句。しかも特選は選ぶ人によつて違います。

どちらが良いというわけではありません。高得点の句は上手い句が多いようです。ペテランの句です。しかし、初心の方でも己が内から湧き出る思いで詠まれた句は、たとえ形が完璧でなくても読み手に深く沁み透つて特選に選ばれます。そこが句会の醍醐味かもしれません。



◆令和4年度第8回理事会の議題（11月17日開催）

今月は下記内容で審議を行った。

●確認事項

10月20日に開催された第7回理事会の議事録（案）が確認された。

●報告事項

①資金繰りについて（定例報告）

②委員会報告（定例報告）

講演委員会からは、12月14日に開催される「日中国交正常化50周年記念公開パネルディスカッション」の主旨・内容についての説明があった。

③事務局報告

11月24日の新会員歓迎会は、新型コロナウイルスの急拡大等の状況を鑑み中止とする。理事会終了後に当ビルの「自衛消火訓練」を実施する。（避難訓練、消火訓練、新設した自衛消火設備と避難器具の説明）

◆芝消防署からの表彰

自動消火設備スプリンクラーおよび垂直式避難器具の設置等の、当協

会の防火安全への取り組みに対して、東京消防庁芝消防署長から表彰を受けた。



感謝状

◆新年1月12日に開催予定であった「新年互礼会」は、残念ながらコロナ感染が拡大していることを鑑み、中止する。

（事務局長 竹前栄男）

同好会だより

＜一石会（囲碁）＞

毎年冬季の12月から2月までは休会です。

＜俳句会＞

新型コロナウイルス感染拡大のため、当分対面での俳句会は休会です。通信での俳句会は継続します。ご興味のある方は、事務局までご連絡ください。

＜謡曲会＞

松木千俊先生のお稽古は一人ずつの個人指導です。ご興味のある方は、事務局までご連絡ください。

みんなの写真館

パルテノン神殿（表紙）

この写真を見れば、言うまでもなく、誰もが「ギリシアのパルテノン神殿」と一目でわかります。確かに、ギリシアの世界遺産「アテネのアクロポリス」の神殿群の中でも、圧倒的な存在感を放っているのがパルテノン神殿です。紀元前438年に完成した神殿は、長い間、アテネの繁栄を見守ってきました。現在の神殿は1834年に始まった修復作業によって再建されたものです。パルテノン神殿は、バチカンの世界遺産「サン・ピエトロ大聖堂」、日本の世界遺産「法隆寺」とあわせて、世界三大宗教空間に数えられます。パルテノン神殿が世界遺産に登録できた主な理由は、古代ギリシア人の思想や信仰を体現する建築だったからです。即ち、パルテノン神殿は、政治体制が民主的だったときに建てられたため、古代民主政治とアテネの文化・芸術を代表するシンボルとなっているのです。

（姜晋如）

1985年のこと（表4上下）

10年にわたった動乱「文化大革命」が毛沢東の死去から1か月後に四人組が逮捕され終息した。1978年復活した鄧小平は「改革開放」を唱え、文革後の経済を立て直すため、積極的経済政策を実施した。1980年代は外国からの各分野の技術導入や各種プラント輸入が盛んになった。当時私が扱った案件の1つが「寧夏回族自治区呉忠市利通の、山武ハネウエル自動調整弁製造プラントで、石油化学プラントなどに欠かせないもので、技術移転の契約に初めて「ロイヤリティ方式」を成功させた。同時に上海市金山区に山武ハネウエルの技サービスマンセンターを設立、日米の技術者が常駐した。1985年5月22日、中国側に引き渡し完了した式典。

1985年3月、中国冶金工業部が傘下の国営五金鉱産貿易会社の製鉄関係ユーザーを組織して来日、上海宝山製鉄廠の導入計画のため日本の製鉄各社を視察した際、KSL神戸製鉄所で記念撮影した。

（新宅久夫）

2023年1月の行事予定

- 10日(火) 14:00 謡曲会(松木先生お稽古)
- 11日(水) 13:00 俳句会(対面は休会)
兼題「猫」及び当季雑詠から5句を投句(12月末までに)
- 18日(水) 14:00 公開 第17回オンライン講演会(Zoomと対面のハイブリッド方式で実施)
「雅の世界——和をもって尊しとなす」
高谷秀司氏(ギタリスト & 和琴奏者、教育者)
- 20日(金) 14:00 公開 【善隣中国塾】(Zoomと対面のハイブリッド方式で実施)
塾長: 矢吹晋氏(横浜市立大学名誉教授、当会学術顧問)
- 23日(月) 14:00 公開 第18回オンライン講演会(Zoomと対面のハイブリッド方式で実施)
「公共放送(NHK)の現状と課題」(仮題)
長井暁氏(ジャーナリスト、元NHKチーフ・プロデューサー)
- 26日(木) 14:00 公開 第19回オンライン講演会(Zoomと対面のハイブリッド方式で実施)
「中国政治経済の現状と米中対立の先に立つもの」(仮題)
津上俊哉氏(日本国際問題研究所客員研究員、現代中国問題研究家)

1月の会議予定

- | | | | |
|--------------|-----------|--------------|-------------|
| 10日(火) 13:00 | 環境委員会 | 19日(木) 15:30 | 広報委員会 |
| 17日(火) 13:00 | 国際交流委員会 | 24日(火) 13:30 | 講演委員会(Zoom) |
| 19日(木) 13:00 | 理事会(第10回) | 25日(水) 13:00 | 東北委員会 |

※下線は通常日程に変更あり。

2023年2月の行事予定

- 2日(木) 14:00 公開 第20回オンライン講演会(Zoomと対面のハイブリッド方式で実施)
「米中知財戦争と日本の戦略——中国はニセモノ大国から知財強国へ」
荒井寿光氏(知財評論家、元通商産業審議官、初代内閣官房知的財産戦略推進事務局長)
- 8日(水) 13:00 俳句会(対面は休会)
兼題「父」及び当季雑詠から5句を投句(1月末までに)
- 9日(水) 14:00 公開 第21回オンライン講演会(Zoomと対面のハイブリッド方式で実施)
「中国のEV、IT社会、そして習近平時代の米中対立」
奥寺淳氏(朝日新聞社広州・香港支局長、2011年度ボーン・上田記念国際記者賞受賞)
- 14日(火) 14:00 謡曲会(松木先生お稽古)
- 17日(金) 14:00 公開 【善隣中国塾】(Zoomと対面のハイブリッド方式で実施)
塾長: 矢吹晋氏(横浜市立大学名誉教授、当会学術顧問)
- 27日(月) 14:00 公開 第22回オンライン講演会(Zoomと対面のハイブリッド方式で実施)
「『復員船』から見た復員・引き揚げ事業」(仮題)
坂口太助氏(日本大学非常勤講師)

2月の会議予定

- | | | | |
|--------------|-----------|-----------------|-----------|
| 7日(火) 13:00 | 国際交流委員会 | Zoom <変更の可能性あり> | |
| 8日(水) 14:00 | 財政委員会 | 16日(木) 13:00 | 理事会(第11回) |
| 14日(火) 13:00 | 環境委員会 | 16日(木) 15:30 | 広報委員会 |
| 14日(火) 13:30 | 講演委員会(対面と | 22日(水) 13:00 | 東北委員会 |

※下線は通常日程に変更あり。

みんなの 写真館

ISSN 0386-0345
二〇一三年（令和五年）一月一日・毎月一日発行

「善隣」第五三二号（通巻七九九）



発行所 〒一〇五〇〇〇四 東京都港区新橋一五五
一般社団法人 国際善隣協会
電話 〇三三五七三三〇五（番代表）

INTERNATIONAL GOOD NEIGHBORHOOD ASSOCIATION (IGNA)
<https://www.kokusaizenrin.com>